

【よくあるご質問】

Q 何も症状が無いのに、この検査を受ける必要はありますか？

A はい。子宮頸がんは、正常な状態からすぐがんになるのではなく、異形成といわれる、がんになる前の状態を何年か経てからがんになります。異形成の時期では症状がなく、おりものや出血、痛みもありません。そのため、症状が無くても検査を定期的に受け、早期発見につなげることが大切です。

Q 子宮頸がん検診（細胞診）と何が違うのですか？

A 子宮頸がん検診（細胞診検査）では、細胞の異常（がん細胞あるいは前がん病変（異形成）の細胞）の有無を調べるのに対し、HPV検査は子宮頸がんの原因となるHPV感染の有無を調べる検査です。HPV検査は前がん病変（異形成）の検出感度が、高い検査ですので、陽性の場合は病院での二次検査受診が必要です。

Q 自己採取で、信頼できる結果は出ますか？

A 自分で検体を採取した場合（自己採取型HPV検査）と、医師が採取した場合（医師採取型HPV検査）では、検査結果の一致率は、99%とされています。

Q HPVに感染していると必ず子宮頸がんになっているのですか？

A ヒトパピローマウイルス（HPV）に感染しても、多くの場合、2年以内にウイルスは自然に排出されるとされています。しかし、ウイルスが自然に排出されず、数年から数十年にわたって持続的に感染した場合には、がんになることがあると報告されています。

■委託事業者

ハッチヘルスケア株式会社

■検査に関するお問い合わせ先

ハッチヘルスケア株式会社 &Scanお客様相談窓口

support@andscan.jp